

令和8年度 総会・講演会へのお誘い

令和8年度総会・講演会は工学部・芸術工学部が理事として担当し、九州大学伊都キャンパスで実施予定です。「元女子学生の未来会議」をテーマに女性のキャリアの話を行う講演会を企画しています。多数のご参加をお待ちしております。

日時 2026年**5月31日(日)**
14:00~17:30

場所 九州大学伊都キャンパス
I²CNERホール

会場はコチラ (福岡市西区元岡744)



●お車で越しの場合
椎木講堂前の守衛室にて入構手続きをお願いいたします(入構料:300円)。タクシーで来学された方はそのまま入構できます。

13:30	受付開始
14:00~14:30	総会
14:30~16:30	講演会・パネルディスカッション
16:30~17:30	懇親会(軽食あり)

講師・パネリスト



宮柱 明日香さん

武田薬品工業株式会社 ジャパン
ファーマ ビジネス ユニット プレジデント

長崎県出身。学生時代は、長崎県や福岡県で過ごし、中学、高校、大学と、長くバドミントンに打ち込んだ。2004年に九州大学大学院生物資源環境科学府 農学修士号を取得後、同年に武田薬品工業にMRとして入社。国内でコマース・メディカル部門を経て、インドネシア赴任、ベトナムではカンントリー・マネジャーとして事業戦略の構築と変革を主導。帰国後は、九州沖縄支店長、神経精神疾患事業部長を歴任し、2024年より日本事業トップであるジャパン ファーマ ビジネス ユニット プレジデントに就任。2025年5月から日本製薬工業協会会長を兼任する。好きな言葉(座右の銘)は「不易流行」。週末には、心身の健康維持のためにピラティス、そして好きなラーメン巡りをして過ごすことが多い。



板垣 奈穂さん

九州大学大学院システム情報科学研究所 教授、システム
情報科学研究所附属量子コンピューティングシステム研究
センター 副センター長兼任、日本学術会議連携会員

1994年九州大学理学部地球惑星科学科入学。1998年同大学卒業後、九州大学大学院総合理工学研究科先端エネルギー理工学専攻修士課程進学。2000年同博士後期課程進学。2003年博士(理学)取得。博士号取得後、産業技術総合研究所(AIST)研究員として太陽電池の開発、キヤノン株式会社研究員として半導体材料・デバイス研究に従事。2010年、九州大学着任。准教授を経て、2019年より現職。2011年から2015年、科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業(PRESTO)研究員を兼任。専門は半導体材料・デバイス、プラズマプロセス、近年は、酸化半導体を基盤とする新規半導体材料の創製、新規半導体結晶成長法の確立、ならびに光インターコネクティブに向けた励起子輸送制御に基づく超低消費電力の電気-光変換デバイスに関する研究を推進。

事務局よりお知らせとお願い

①メルマガ登録

九州大学女子卒業生の会「松の実会」では、定期的にメルマガを発信しています。右記のQRコードからお申込みができますので、ぜひお申し込みをお願いします。



②会費振込について

①郵便振替と②口座振込(ゆうちょ銀行)の2つの方法があります。②口座振込の際は、送金人の欄もしくは通信文に必ず学部と卒年を記載ください(例:「ムラヤマユカリS57ブン」等)。氏名だけでは振込者の確認困難で会報が届かなくなる可能性があります。なお①郵便振替は個人に番号を振っており確認しやすいため①をおすすめします。

③住所変更について

毎年、会報が宛先不明で戻ってきます。住所変更された際は、以下のどちらでも結構ですので、お知らせください。

- ①郵便振替用紙の通信欄に記載
- ②事務局までメールで連絡 matunomi@abelia.ocn.ne.jp

年会費および参加費納入方法

①郵便振替 同封の郵便振替用紙

②口座振込 ゆうちょ銀行

年会費および参加費は次の方法によりお支払いください。

一七九(イチナナキュウ)店(179)当座 **0036085**

【加入者名】九州大学女子卒業生の会

年会費納入および寄附のお礼とお願い

松の実会は、皆様の会費で運営されています。総会に参加されない方も年会費(2,000円)をお願いします。また、財政状況の改善を図るため、郵便振込用紙に「寄附」の欄を設けさせていただいています。昨年度も、皆様方から多額の寄附をお寄せいただき、本当にありがとうございました。寄附は少額でも結構です。引き続きご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いたします。

参加費 2,000円(学生:無料)

申込締切 2026年**5月15日(金)**

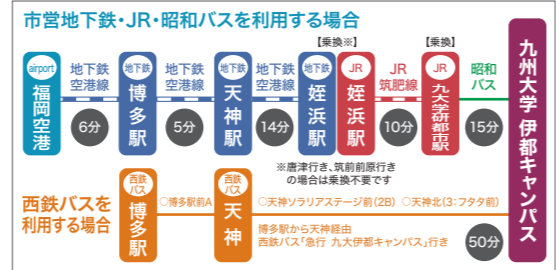
参加申込方法

右記QRコードまたは松の実会ホームページより参加申込を行ってください。



松の実会 検索

【問合せ先】 matunomi@abelia.ocn.ne.jp



九州大学女子卒業生の会
matunomi
2026 February
Vol. 60

発行:九州大学女子卒業生の会「松の実会」事務局

〒810-0001 福岡市中央区天神2-12-1 天神ビル8階 一般社団法人九州学士会内
【お問合せ先】 matunomi@abelia.ocn.ne.jp

九州大学女子卒業生の会

松の実

matunomi
2026 February

【テーマ】

元女子学生の未来会議

【特集】

声なき...見えざる...ジェンダー格差

特別寄稿

『キャンパスのジェンダー・バランス』
河野 銀子さん

『デザインとジェンダーの出会い』
池田 美奈子さん

『見過ごされやすい女性のADHDとジェンダー』
中島 美鈴さん

Vol.
60

● ごあいさつ ●

私たちの活動テーマは「元女子学生の未来会議」です。松の実会は1967年の発足以来、九州大学女子卒業生が世代を超えて支え合い、学び合える場として活動が続けてまいりました。諸先輩方が築いてこられた想いを引き継ぎ、私たちもまた九州大学の「元女子学生」として、女性が自分らしく生き生きと活躍できる社会に少しでも貢献する活動が続けていこうと考えています。

工学部は本学の中でも最大の学生数を擁する学部ですが、かつては女子学生が極めて少なく、卒業生全体に占める女性の数は決して多いものではありませんでした。30年ほど前には、女性比率は1%程度であったように記憶しています。私の世代(90年代後半)では、研究室配属の際に「女子学生は一研究室につき一人まで」という暗黙の了解が存在していました。これは、当時、女子学生の就職が男子学生よりも不利であり、同じ分野・同じ卒業年の女子学生が複数在籍すると就職先の確保が難しくなるという現実が背景にあったためです。現在では、そのような状況は大きく改善されています。企業側が組織内の女性比率を高めるために、工学分野を学んだ女子学生を積極的に採用する動きが広がっているためです。女子学生が将来を案ずることなく、自由に進路や就職先を選択できるようになったことは、非常に喜ばしい変化だと感じています。一方で、そこで得られた機会をそれぞれが大切に、社会の中で努力を重ね、その経験や姿をさらに次の世代につないでいってほしいと願っています。

働き方や暮らし方、価値観が多様化するなかで、同窓のつながりはますます大きな意味を持つようになってきました。同じ学び舎で学んだという共通点は、初

対面でも自然に距離を縮めてくれ、未来について前向きに語り合う力を与えてくれます。先に行く先輩の姿は、後に続く世代にとってのロールモデルとなり、次の一歩を踏み出す勇気を与えてくれるでしょう。それが女子同窓会の果たすべき大切な役割の一つではないでしょうか。

本号は第60号の記念特集として、「声なき...見えざる...ジェンダー格差」をテーマにお届けいたしました。女性の活躍が社会で期待される今、女子卒業生一人ひとりの歩みはこれまで以上に注目されています。さまざまな世代や分野の視点を交えることが「未来会議」にふさわしい姿だと思っております。教育学部、理学部から引き継がれた理事会担当のバトンは、今年度、工学部と芸術工学部へと渡されました。学部や世代を超えてつながってきた松の実会が、皆さまにとってこれからも心強い存在であり続けることを願っております。皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

会長 稲田 幹さん
(H17年 工学府博士課程 修了)
九州大学大学院
工学研究院応用化学部門 准教授



60th HISTORY

松の実会 60年の歩み

【九州大学女子卒業生の会趣意書】 制定日 1967年3月25日

昭和42年3月の薬学部女子入学規制問題に関する集まりに端を発したこの会(創立:昭和42年3月25日)は、私達九州大学女子卒業生がお互いに助けあい励ましあい反省しあう場として育てていきたいという希望が寄せられて、一歩ずつ幼い歩みを進めて参りました。卒業生には職業を持っている人いない人、既婚者未婚者、子供のいる人いない人、年代の相違等いろいろあり、様々な環境の違いの中でこの会を維持していくことはなかなか難しいことだと思います。しかし、この中で共通する私達の願いは、私達の受けた教育を社会に還元するために何かしたい...自分もその一員である社会に連なったところで何か仕事をしたい...ということではないでしょうか。そこである人は職業を持つとうとするでしょう。しかし現代の社会でこの志を実現させることは容易ではありません。たとえ就職することができても賃金や身分の上で差別され、更に結婚や出産が難事となってひかえています。こうした条件の中でも仕事と家事育児を非常な努力で両立させている多くの卒業生があります。一方本当に止むを得ない事情で家庭にあるものも少なくありません。しかし、この場合も、私達はやはり学んだ学問を基礎にいろいろの形の社会活動を行っています。その時、誰しもがこうした困難な状況を少しでも改善する方法と手がかりを求めずにはいられないのです。この会がそうした各人の切実な願いと努力をあつめて社会に通じる場となることこそ私達のめざすところです。私達は各自の貴重な経験と自覚と省察を持ち寄り、私達が共通して置かれている条件を正視しながら、女性の地位向上をめざして現実改善への努力を続けていきます。

100名余の有志が灯した小さな想い。それはジェンダーの壁を越え、社会で輝くための灯でした。60年育まれたこの灯を次代へ。同窓生や未来の学生が、性別や様々な差別にとらわれず、のびのびと自分らしく活躍できる未来を共に築き続ける。そんな不変の願いを込めて。

会報誌タイトルから見る「松の実会」の歴史

創成期～国際婦人年 (1975年頃まで)	国際的な権利確立・ 法律整備期 (1976年頃～1988年頃)	21世紀へのネットワークと 社会貢献期 (1988年頃～2000年頃)	男女共同参画社会の 「実現と定着」期 (2000年頃～2010年代半ば)	持続可能な未来・危機対応と 次世代への継承期 (2015年頃～現在)
「仕事と家庭の両立・ 社会参加」 卒業生が結婚・出産を経て社会で活動する中で直面する、「働くこと」と「家庭・育児」との葛藤や両立の条件が主要なテーマです。 【タイトル例】 ・女性が安心して働ける社会 ・女性が仕事を続ける条件 ・働くと暮らすの性差ギャップ 平均会費納入者数:約150名	「社会への再参入、国際化、 女性の法的地位」 「国際婦人年」を受けて女性差別撤廃条約や雇用機会均等法が動き出した時期と重なります。女性がより積極的に社会(職場)へ再参入するための情報や、国際的な視点(女性学など)を取り入れようという関心が強まっています。 【タイトル例】 ・再就職 ・1980年代の女性 ・海外の動向・女性学 平均会費納入者数:約650名	「国際協力、男女の差、 ネットワークの重要性」 女性個人の悩みから発展し、「国際社会」や「地球」といったより大きな枠組みの中の女性の役割・活躍、そしてネットワークを強化し社会を変えていくという視点が加わっています。 【タイトル例】 ・21世紀に向けて ～地球を愛おしむ～ ・福岡県副知事就任特集 ・2000年に向けて ～女性ネットワークの重要性～ 平均会費納入者数:約1100名	「生き方の探求、 文化、健康、住まい」 男女共同参画社会基本法の施行後、形式的な機会均等(雇用など)の社会参画の「量」から「質」へと焦点を移しています。「生き方」や「健康」、「暮らし方」などの生活の基盤を整え「女性がいきいきと輝く社会」の探求に移行した。 【タイトル例】 ～自分の生き方を探して～ ・異色のキャリア ・住まいのかたち・これからの暮らし ・女性と健康 平均会費納入者数:約1150名	「SDGs、危機対応(コロナ禍)、 多様な個人の貢献と未来継承」 コロナ禍やSDGs等の複合課題に対し、多様な個人の活躍と貢献が不可欠と認識し、社会参画の「質」から「持続可能な未来への貢献」へと変化すると同時に本会のレガシーを次世代へつなぐ役割を強く意識した。 【タイトル例】 ・これからの時代をどう生きるか ・つなぐ明日へ持続可能な未来 平均会費納入者数:約675名
松の実会関連の出来事 1967年 松の実会発足 趣意書「九大女子卒業生の会」制定	1975年 国際婦人年を記念して約250名へのアンケート実施	1986年 関東支部始まり(32名) 1987年 佐賀・山口・宮崎支部始まり	2000年 期末変更、事務局天神ビルへ(事務局員採用) 2003年 九州芸術工科大学統合 2005年 伊都キャンパス移転開始	2018年 伊都キャンパス移転完了 2022年 正式に「寄付のお願い」始まる
1975年 国際婦人年(国連)と定め 第一回世界女性会議 (メキシコ)出席 主要テーマ:平等、開発、平和のグローバルな提起。これを機に3月8日国際女性デーと定められる。 ★1966年 結婚退職制に司法がNO:住友セメント事件(女性だけに結婚退職を迫る運用が争われ、性差別性が示された“初期の象徴的事件”) ★1969年 アニメ『サザエさん』放送開始	1980年 第二回世界女性会議 (コペンハーゲン)出席 主要テーマ:女性差別撤廃条約の採択 ・女性差別撤廃条約署名 1985年 第三回世界女性会議 (ナイロビ)出席 主要テーマ:女性を革新の主体とする理念の確立 1986年 男女雇用均等法施行 ★1973年 小説『あゝ野麦峠』(工女の労働と搾取がテーマ) ★1979年 映画『クレイマー、クレイマー』(離婚・養育など家族モデルの揺れがテーマに)	1992年 育児休業法(当時)施行 1995年 第四回世界女性会議 (北京)出席 主要テーマ:北京行動綱領の採択と制定 1998年 九州初の女性副知事 (稗田慶子さん)就任 1999年 男女共同参画社会基本法施行 ★1989年 「セクハラ(セクシュアルハラスメント)」が社会語化(職場問題として可視化) ★1991年 バブル経済崩壊 ★2000年 ストーカー規制法(ストーカーの社会問題化→法整備)	2000年 国連特別総会 (ニューヨーク)出席 主要テーマ:北京行動綱領の進捗レビューと実行強化 ★2001年 DV防止法施行 ★2007年 酒井順子のエッセイ『負け犬の遠吠え』 ★2007年 「婚活」が広まり、結婚＝個人戦略/市場の言葉で語られる局面へ ★2009年 「草食系男子」が流行語大賞トップテンに。	2015年 SDGs(持続可能な開発目標)が国連で採択(2030アジェンダ) 2016年 女性活躍推進法施行 ★2011年 なでしこジャパン:スポーツ領域のジェンダー認知が拡大 ★2013年 DV防止法改正 ★2014年 「マタハラ」が新語・流行語大賞トップ10入り ★2017年 #MeToo運動が世界的に広まる

世界でのジェンダー関連の重要な出来事 ★はその他のジェンダー関連の出来事

contents

- ページ
- 1 ごあいさつ 会長 稲田 幹さん
 - 2 60th HISTORY ～松の実会60年の歩み～
 - 3 【特集】声なき...見えざる...ジェンダー格差
- 特別寄稿
- 『キャンパスのジェンダー・バランス』 河野 銀子さん
 - 『デザインとジェンダーの出会い』 池田 美奈子さん
 - 『見過ごされやすい女性のADHDとジェンダー』 中島 美鈴さん
- ページ
- 7 オンライン 座談会 大前 綾香さん・森 久恵さん・川口 枝美子さん・吉武 麻子さん・松の実会 理事 原口 唯さん
 - 9 message from ～活躍する女性～ OG 井上 千穂さん・境 小牧さん・佐野 文子さん・高宮 文さん
 - 11 支部だより
 - 12 会員通信
 - 13 総会報告・令和6年度 会計決算報告
 - 14 役員紹介

【特集】
声なき...見えざる...ジェンダー格差

キャンパスのジェンダー・バランス



河野 銀子 さん

(H8年 上智大学大学院博士後期課程 修了)
九州大学男女共同参画推進室・教授

profile

専門は教育社会学・ジェンダーと科学技術。博士(社会学)。1996年に山形大学教育学部に講師として着任、2014年より同大教授。この間、理事特別補佐として男女共同参画推進を担当。内閣府や文部科学省の委員を歴任。2023年10月より現職。

【日本の大学ジェンダー・バランス】

グローバル・ジェンダーギャップ指数(世界経済フォーラム)などに基づき、日本社会のジェンダー平等が十分に進んでいないと、たびたび指摘されています。各分野の女性参画が緩やかにしか進まない背景の一つに、専門人材を育成する大学のジェンダー・バランスが改善しないことがあげられるでしょう。

戦後、日本女性の大学進学率は上昇し、1973年に10%、2000年に30%を上回り、2018年には50%を超えました。男性の進学率との差も徐々に縮小し、1973年に20ポイントあった男女差は2000年には16.4ポイントになりました。しかし、2024年度になっても約6ポイントの差があります(女性56.2%、男性61.9%)。文部科学省の大学進学率には浪人生も含まれるため、「浪人してでも難関大学をめざす」傾向のある男性の進学率の方が高くなると言われています。また、女性の大学院進学率(学部卒業後に直ちに進学)は6%前後で、男性(15%前後)の半分以下です。

進学率の男女差はキャンパスのジェンダー・バランスを悪くします。学部生の女性比率は46.1%で半数を満たさず、大学院生では33.2%とさらに低いのですが、このような低さは国際的には特異なものです。学部生の女性比率が50%を超えている国が多くあるからです。OECD加盟国等の学部生の女性比率平均は55%程度で、修士課程ではさらに高くなります。米国で女性比率が50%を上回ったのは1979年でしたが、現在では、欧米諸国の他、韓国や中国の学部や修士課程の女性比率も50%を超えています。

【九州大学各学部のジェンダー・バランス】

九州大学はどうでしょうか。『九州大学概要』によると、2025年5月1日現在の学生数は、学部で11687人、大学院で7126人です。女性比率は、順に31.7%、

27.3%で、いずれも半数に達しません。ただし、女性の過小代表は国立大学全体に共通しており、私立や公立を含む大学全体の女性比率(学部46.1%、大学院33.2%)より低くなっています(同38.3%、30.2%)。

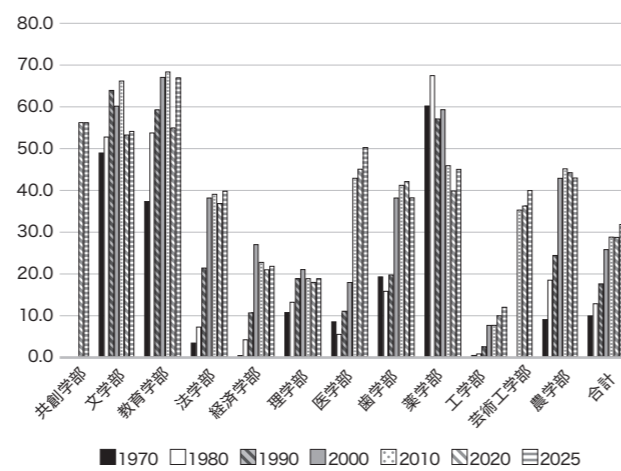


図1:九州大学の学部別女性学生比率の変化

では、女性比率はどう変化したでしょうか(図1)。全学部合計の女性学生数は、1970年の861人から2025年の3700人へと約4倍、女性比率は10%から32%と約3倍になりました。ただ、どの学部でも女性比率が高くなったわけではありません。文学部と教育学部は1980年には女性比率が50%を超え、2010年には学生の7割近くが女性でしたが、その年をピークに下降しています。共創学部の設置(2018年)が、受験生の選択行動に影響したかもしれません。また、薬学部は1970年に学生の6割が女性でしたが、1980年の67%をピークに下降し、2010年以降、50%を下回っています。背景として、薬学教育6年制化(2006年)による学科再編の影響がありそうです。各種調査によれば、教育年限の長い専攻分野を避ける傾向は男性より女性に顕著にみられます。

実は、薬学部は女性に人気があり、1960年代半ばには全国的に女性比率が高まっていました。ところが、大学側はそれを抑制しようとし、「女子の定員を設ける」と発言する学長や、入試要項に「男子に適した学科」と記載する大学が現れたりしました。九州大学男女共同参画推進室が発行している『News Letter』第6号(2009)には、この時、「九州大学女子卒業生有志懇談会」が立ち上がり、大学側との粘り強い交渉により女子の入学制限が撤回されたこと、これをきっかけに「九州大学女子卒業生の会」が発足したことを当時の松の実会会長・樺島浩子さんが記されています。こうして女性たち自らが声を上げて、女性の学びの機会を守ったことは、特筆すべき事実と思われる。

【「冷たい環境(Chilly Climate)」】

ところで、学部や修士で女性比率の方が高い国でも理工系分野となると話は別で、30~40年前から理工系に女性を増やす政策を推進してきたにもかかわらず、改善しない分野があります。米国を例にとれば、生物学・農学は1990年代に、化学は2000年代に学部生の50%以上が女性になりましたが、物理学や工学の伸びは小さく、また、数学やコンピューター科学では増加後に横ばいや低下に転じました。その原因を探る諸研究のなかでも有力な説が、「Chilly Climate」です。

これは、女性(およびマイノリティ)が、教室や研究室内で経験する孤独や侮辱等を指します。具体的には、言語的次元(人類の代表としての“he”“man”の使用や女性の能力を低く見る発言等)や行動的次元(教員が頻りに男性を指名したり名前前で呼ぶ等)、そしてカリキュラムの次元(教材や講義内容に女性研究者の業績

が含まれていない、女性の学問的貢献の紹介が特定分野に限られている等)で生じます。マジョリティ側は差別対象となりにくいために気づきにくい一方で、自身が対象となりやすい女性は疎外感や不快感を抱きやすくなります。これらの経験は女性の心理的安全を脅かすだけでなく、学業にも悪影響を与え、成績不振や退学を招きやすくなると指摘されています。

女性が極端に少ない分野で「冷たい環境」を変革するためには、マジョリティがその特権に気づくとともに、サポートティブな教師の存在や女性同士のネットワークが重要とされています。

【女性学生の専攻分野とダイバーシティ】

最後に、専攻分野の構成比を男女別に見ます。学部構成に変更があった点に留意が必要ですが、男女間に顕著な差があることがわかります。男性は工学部を専攻する比率が一貫して高く、半世紀以上にわたって40%前後で推移しています。他方、女性は1970年には文学部(34.4%)と薬学部(22.1%)で6割近くを占めていたものの、徐々に専攻分野が多様になっています。このことは、たとえば卒業生が一堂に会せば、様々な専門知識やスキルをもつ女性同士で交流できることを意味します。キャンパスの女性学生ははまだ3割程度ですが、総合知で社会変革を牽引するに相応しい多様性をもっているのです。そして多様な分野で活躍する卒業生の存在は、入学する女性の増加にも繋がるに違いありません。

男女共同参画推進室としても、多様性の拡大とジェンダー・バランスの是正に努めてまいり所存です。引き続きのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

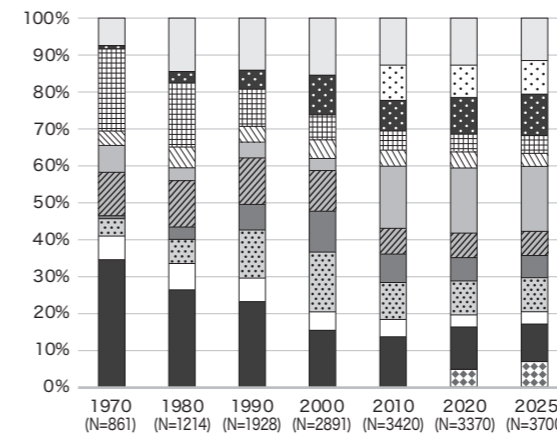


図2:九州大学学部生の専攻分野構成比(女性)

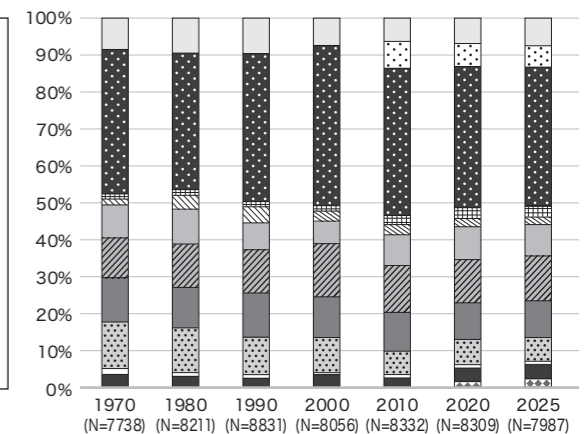


図3:九州大学学部生の専攻分野構成比(男性)

【特集】声なき...見えざる...ジェンダー格差

デザインとジェンダーの出会い

池田 美奈子 さん

(H7年 東京藝術大学大学院美術研究科 卒)
Edit-and-Design 編集者・デザイン研究者



profile

東京藝術大学大学院を修了し、同大助手を経て日経BP社『日経デザイン』誌の編集者などを務める。2003-2024年、九州大学大学院芸術工学研究院准教授、現同大客員教授。日本デザイン学会理事、日本デザイン振興会理事。

私は1985年の男女雇用機会均等法が成立する1年前に社会に出た世代ですが、ジェンダーを意識したのは随分後になってからでした。デザインという分野で活動してきた環境の影響もあったと思います。実際、ジェンダーに関わるようになったのもデザインプロジェクトを通してでした。

2003年から24年まで、九州大学芸術工学部でデザインを教えていましたが、着任から少し経った頃、大学に国際化の波が押し寄せ、海外の大学との交流を推進する役割を担うことになり、ドイツのケルン応用科学大学で、ジェンダーデザインを提唱していたウタ・ブランデス教授と親しくなりました。彼女が取り組んでいた「Women in Hotels」というデザインプロジェクトを知ったことがきっかけで、男女格差の問題提起とは異なるジェンダー論の可能性に気づきました。彼女が2010年に主導したこのプロジェクトは、世界各国のビジネスウーマンに着目し、ホテルがどのように利用されているかを多面的に調査するものでした。宿泊客の半数以上が女性であるにもかかわらず当時のビジネスホテルはほとんどが男性仕様でした。調査の結果、男性がホテルに期待することは、快適なシャワーとベッド、WiFi接続の3種類ぐらいに集約されたのに対し、女性は、スーツケースの使いやすい収納から窓の開閉、化粧品などをきれいに並べて置ける洗面台、女性ひとりでも過ごしやすいバーラウンジに至るまで、要望は約100項目にも及びました。調査で示されたのは、女性たちの要望は男性たちにとって心地よいものであり、ホテルのサービスや空間デザインを考える上で役に立つということでした。そこには、それまで見過ごされていたアイデアの種がたくさんありました。

男女の不均衡を問題視するのではなく、そのギャップを逆手にとって新たな発想を得て創造活動に結びつけることはデザインに携わる者として非常に興味深く思われました。その後、縁あって社会科学や人文科学、自然科学などの分野からジェンダーにアプローチする研究者コミュニティに迎えられ、ジェンダーをテーマにした2冊の書籍の出版に参加させていただきました。1冊目の『ジェンダー研究が拓く知の地平』

では「ジェンダーデザインの視座—ジェンダー化するクルマとデザインの相互作用」と題した論考を寄稿し、人(ユーザーや消費者)が物のデザインに影響を与え、逆に物のデザインが人を変えていく相互作用をジェンダー視点で描きました。2冊目の『ジェンダード・イノベーションの可能性』では「ジェンダード・イノベーションを駆動するデザインの力」という題目で文章を書きましたが、「ジェンダード・イノベーション」という言葉を知ったのは、実はこの時の執筆依頼がきっかけでした。この言葉を提唱した、科学史家でスタンフォード大学の教授を務めるロンダ・シービンガー氏は、科学の歴史からいかに女性が排除されてきたのかを学術的に論じた著作で有名ですが、ある時「ネガティブなこと、つまり『バイアス』について語るよりも、ポジティブなこと、つまり『イノベーション』について語るの方が効果的だ」とアプローチを転換し、ジェンダード・イノベーションの提唱に至ったそうです。デザイン経由でジェンダーに行き着いた私が思い描いていたジェンダー観が見事に言語化されていました。

シービンガー教授らのチームが、ジェンダード・イノベーションの考え方をデザインプロセスに取り込むために開発した『交差性デザインカード』は、ジェンダー、年齢、人種、障がい、学歴などの多様性要素を見ていくことで新しい発想を導く思考ツールです。デザイン分野では1990年代から、障がい者や子ども、高齢者を含むあらゆる人に使いやすいデザインを目指すユニバーサルデザインやインクルーシブデザインが活発になりますが、そこにジェンダーを起点とした「交差性デザイン」が合流したように思います。それぞれ別の登山口から出発し、異なるルートで頂上を目指す中で見えてきたのが共通のゴールである多様性を包含する理想的な生活の景色だったのです。

1. 東海ジェンダー研究所記念論集編集委員会編『ジェンダー研究が拓く知の地平』2022年：明石書店
2. 小川眞里子、鶴田想人、弓削尚子編著『ジェンダード・イノベーションの可能性』2024年：明石書店
3. ハンナ・ジョーンズ、ロンダ・シービンガー、アン・グライムズ、アンドレア・スモール著 お茶の水女子大学ジェンダード・イノベーション研究所訳『交差性デザインカード』2025年：特定非営利活動法人お茶の水学術事業会

見過ごされやすい女性の ADHDとジェンダー

中島 美鈴 さん

(R2年 人間環境学府 卒)
中島心理相談所 九州大学大学院人間環境学府学術協力研究員



profile

臨床心理士、心理学博士。時間管理とADHDの認知行動療法が専門。著書57冊、論文54本。NHK出演多数。2012年に中島心理相談所開設。

みなさんはADHDという言葉を知ったことがおありだと思います。

発達障害の一種で、ちょうどサザエさんのおおちょこちよいでそそっかしい人をイメージしていただくといいでしょう。不注意、多動、衝動性を特徴としています。以前は授業中に立ち回り落ち着きのない子どものイメージが先行し、大人になると落ち着くといわれていましたが、近年では大人になっても続くことがわかってきました。このADHDが臨床心理士である私の専門分野です。

このADHDには性差があることがわかっています。歴史的に女性のADHDは見過ごされやすいことがわかっているのです。40代で初めてADHDと診断を受けたある女性は、授業中もまじめに席についていましたし、高いところから飛び降りたりしてケガしたこともないし、他の子どもにちょっかいを出してトラブルになったこともありませんでした。そのため自分も親も配偶者すら彼女のADHDを疑ったことなどなかったのです。しかし、よくよく話をきくと、「授業中はおとなしく座っていたけれど、頭の中は忙しく想像の世界にいた」「大人になってからも、ケアレスミスや忘れ物を防ぐためにただならぬ努力をして疲れ果てていた」「会社のデスクは綺麗にしているが家は汚くて毎日に家事や育児をこなせず破綻した」というのです。これは診断基準が男性を基準に作成されたからだと言われていました。「女の子なのだからおしとやかに」「人に迷惑をかけてはだめ」「部屋はきれいに」というジェンダーで表面的な行動こそ抑制されていたものの、彼女は水面下で尋常でない努力をし、頭の中の多動を抱えていたというわけです。案の定、彼女はこう考えていました。「私は部屋も散らかっていて、家事も育児も一人前にこなせないだらしない女性だ」これが同じ立場の男性ならどのように捉えたのでしょうか。見渡してみると、

部屋が汚くても、家事能力が低くても、献身的な秘書や配偶者に支えられてなんの罪悪感も抱かずに、むしろ「私は仕事ができるのだからいい」と自信を持っている人は多くいることでしょう。

日本は先進国の中でもジェンダーギャップランキングが低いことで有名です。背景にはこのような見過ごされたADHDの女性が一定数いるのかもしれませんが。女性はこうあるべきという社会的な期待で自分をすり減らしてきたのかもしれませんが。ADHDは幸いながら薬物療法でずいぶん改善する発達障害です。まずは見過ごされていた診断を受け、正しく治療することでずいぶん生きていくのが楽になります。また、自分をADHDという視点から振り返ることで、「だらしのないのではなく、ドーパミン濃度が低いからだったのか」「いつもギリギリになるのは怠けではなく、小脳の時間感覚や報酬系のせいだったのか」と理解できれば、自分を責めるのも減らせます。原因がわかれば対処も効果的に行えるのです。ぜひ、自分を正しく理解して、ADHDらしさを生かしながら素敵な人生を謳歌してください。



著書の一部。ロシア、中国、韓国、台湾、タイなど5カ国で翻訳されている。

松の実会会員(卒業生)と現役女子学生、
世代の異なる4人に、
それぞれの「生き生きと働くこと」について
お話を伺いました!



松の実会 理事
原口 唯さん
(H21年 芸術工学部卒)
(H23年 芸術工学府修了)

司会

60周年
記念
オンライン **座談会**
Fireside chat



参加していただいた方々



大前 綾香さん
(R8年 工学部 卒予定)

山口県下関市出身。原子力発電の研究
とQUSIS(九大起業部)代表を両立。
春から東京のIT企業へ就職予定。



森 久恵さん
(H25年 芸術工学部 卒)

アパレル企業で店舗レイアウトやディ
スプレイを経験後、個人事業主に。現
在は3人の子育てとライター業を通し
て自分と向き合う日々。



川口 枝美子さん
(H18年 工学部 卒)

新卒で九州のインフラ企業に就職。関
東の素材メーカーへ転職し、現在は子
供2人を育てながら工場の総務・人事
に従事。



吉武 麻子さん
(H7年 芸術工学部 卒)

「居心地の悪い思いをしている人がい
ない社会に。」が、私の仕事の目指すこ
ろです。

トレンドドラマからパラレルキャリアへ —— 変わる働き方、変わらない気持ち



今春から東京のIT企業への就職を控えています。私は20代のうちはバリバリ働きたいなと思っています!自分が社会でどれだけ通用するんだろうってワクワクしていて、いっぱい働きたい気持ちです。とはいえ、ずっと働き続けるというより、結婚や出産も経験してみたいので、30代になったら…は、正直その生活はまだイメージできてなくて。会社もずっと勤め上げようと思っているわけではなく、キャリアアップのためなのかライフステージに合わせてなのか、30代で変えていきたいなと思っています。



私は大前さんと逆に、子どもが3人欲しいという思いが昔から強くあって、それを中心に人生を考えていました。仕事も、大学で学んだことがあるから続けたい気持ちはあったけれど、周りの母世代に専業主婦が多かったので、出産後は専業主婦になるイメージが強かったです。でも、働いた経験やご縁を通じて、細くでも仕事を続けて、子育てとは別の自分の軸も持ち続けたいなって意識が変化してきました。



私は企業で人事をしています。いまの学生さんって本当にビジョンが明確ですね。私はそんなにイメージしてなかったというか、地元で家庭を持って、仕事はしっかりやりたい、両立したい、くらいのふんわりした感じでした(笑)。でも実際はその通りにはなくて…結婚して東京に行くとも思ってなかった。最初に軸に置いていたものって絶対じゃないな、その時その時で変わっていくなと感じています。



私の学生時代はトレンドドラマの全盛期ですね。W浅野なんてみんな知らないかな?東京で一人暮らしして、おしゃれなスーツに身を包んで、夜はカフェバーへ…みたいな社会人像が一般的でした。働くといっても選択肢が少なく、バリキャリアを狙うか、普通だったら結婚して子どもが生まれたらパートに出るか、くらいしか思い当たらなかった。私は結局、いろんな仕事をしながら起業して30年過ごしてきました。いまはさらに地域コミュニティに関わりたいと思うようになって、地域福祉の専門職を目標に就労支援施設で職員として働いています。



暮らしと仕事の両立は
どのように考えていらっしゃいますか?



今、直近で4月から入社する会社に不安はないんです。でも20代はいっぱい働きたい、30代からライフイベントが起きるだろうなと予想したときに、仕事も頑張りつつ育児もするという両立が、先輩に聞いても「難しい、大変だった」と言われる。子どもの急な発熱に対応する制度があっても、実際にどれくらい許容してくれるのか、会社によって違うと聞いていて。私が30代になる数年後に、文化としてどれくらい浸透しているのかなというのは不安です。



育休は取りやすくなってきて、むしろ男性が取りたいけど取りにくい雰囲気の方が課題かもしれません。制度面は心配しすぎなくていいと思う—

方で、両立は自分の中で天秤にかける場面が出てきて絶対悩むものですね。でもその時に、若い頃に蓄積してきたスキルや能力、周りとの信頼関係が本当に助けてくれます。時間があるうちに頑張っておくと、その後の仕事のしやすさが全然違ってきますよ。



私は、子どもとの時間をとりたくて、朝の4時~6時に仕事を凝縮させて、日中は思い切り子どもと過ごす働き方を選びました。入園・入学した今も、昼間だけの対応だと急な体調不良で回らなくなることがあるので、リスクヘッジとして朝の仕事も続けています。眠い日もありますが(笑)、その時々で、自分が健やかに過ごせるバランスを探っている感じです。



日々、天秤ですね。私も「この日は学校のイベントに行ったから、この日は仕事を優先しよう」と線引きしながらやっています。小学校も保育園も、平日にイベントが設定されることが多く、「働いてるから預けてるんだけどなあ…」って思うこともあります(笑)。



ある精神科医の方が「自立とは依存先を増やすことだ」と言っていました。制度でも人でも、頼れる場所にきちんと頼ることは、“自分で立つ”ことの一つなのかなと。頼るのは勇気もいりますが、助けてもらった経験があるから、誰かが困っていることにも気づけるんじゃないかなって。だから、「助けてもらうことは弱いことじゃない」と思える人が増えたらいいなと思います。



これからの働き方に思うことは?



今の皆さんのお話を聞いていて、すごく優しい会話ができたなと感じています。実は、学科は80人中、女性が8人しかいなくて、どの集団にいても女

性が私一人だけということが多く、居心地の悪さをずっと感じていました。だから今日は、久しぶりに安心して話してきた。こういう場があること自体が、私にとってはすごく力になります。



私の時は2クラスで女性は2人でしたから、本当に少しずつではありますが状況は改善しているようですね。でも不思議なもので、その環境に慣れすぎると、逆に女性ばかりの会場に行くとそのわさわしちゃったりもする。大前さんのように理系で活躍する女性が増えて、後輩にその姿を見せていくのは、地道だけど大事な一歩だと思います。



私は今、数人の主婦でチームを組んで、自分がやった仕事をパスして他の人がこなす、というやり方で働いています。自分が不在でも誰かが代われる「代替可能」な状況って、一見、自分に価値がないように思えますが、そこにいるみんなに価値があって、それをお互いに認め合っているから成り立つ状況なんだなと気づいてから、人に仕事ををお願いするのが楽になりました。



私はいま、福祉の現場で働いていますが、認知症で90代の方でも「何か手伝えることない?」と仰るんです。誰かの役に立ちたい、社会から必要とされたいというのは、人間が働くことの本能に近い。だから、理想を決めすぎず、その時々のお気持ちに従って動いてみるのも大事。世の中って急には変わらないけれど、母の世代、私の世代、子どもの世代と、少しずつ「自由でいい」という空気は増えてきていると感じます。私たちが「理不尽だね」と声に出すこと自体が、二世帯先に何かを変える「バタフライエフェクト」になるのかもしれない。そうやって緩やかに、過ごしやすくなっていけばいいなと思っています。

女性の働く環境は60年前と比較してどのように変わったのでしょうか。転職や起業、転職に挑む国内外のOG。葛藤を越え自分らしく歩む言葉は、私たちに勇気と新たな視点を与えてくれます。

納得できる道を求めて。転職で広がる、私の新しい選択肢。



ソニー株式会社
井上 千穂さん

(R1年 工学部物質科学工学科 卒)
(R3年 工学府材料工学専攻 修了)

2019年に九州大学工学部物質科学工学科材料物性コースを卒業し、2021年に工学府材料工学専攻を修了しました。修了後はキヤノン株式会社に入社しましたが、自分の進みたい方向を見つめ直し、2024年に現在勤務しているソニー株式会社へ転職しました。現在は交換式レンズの画質や仕様を決めるレンズ設計の仕事を担当しています。まだ慣れないことも多く、平日は遅くまで働くこともありますが、少しずつできることが増えていく日々やりがいを感じています。

休日は友人と出かけたり、仕事の勉強も兼ねて写真を撮ったりと、充実した時間を過ごしています。学生の頃は自分がカメラに関わる仕事をするとは思っていませんでしたが、新しいことを学び、コミュニティを広げる中で、将来の選択肢が以前より広がっていると感じています。

一方で、転職して生活に納得感が増したものの、今後のキャリアや結婚・出産など、将来への悩みは尽きません。そこで今の自分にできることとして、社内交流会への参加や、興味のある分野(英語、デザイン、世界史など)の学習に積極的に取り組んでいます。仕事も趣味も思うようにいかないことはありますが、未来の選択肢を増やし、自信につながられるよう、これからも多くの経験を積んでいきたいと思っています。

「女性だから」を越えて。管理職と母、どちらの役割も大切に。

造船会社で船の骨組みを設計する構造設計に所属し、管理職として働いています。私生活では4歳と6歳の子どもの母親です。入社19年、女性ならではの葛藤や不安を経験してきました。

2006年、三重県の事業所に入社後、熊本、横浜と異動を重ねました。入社10年目、横浜の本社在籍中に熊本在住の夫と結婚。当時35歳を過ぎており、「結婚=異動」という選択が当然のように思われました。仕事では責任が増し、本社での開発業務に面白さを感じていた時期。仕事、家庭、子ども、優先順位は?と悩み続けました。そんな時、夫が「子どもは授かりもの。今やりたいことをやれば?」と言ってくれたことで、別居婚を決断しました。結婚から1年、妊娠が分かりましたが、体調は安定せず、入院と休職を余儀なくされました。別居婚の為、不安な時期を一人で過ごすことに。復帰後すぐに異動を願い出ました。

最近、「女性が働きやすい社会」というテーマで、他社の女性社員と意見交換する機会がありました。その中で感じたのは、「女性が」という枕詞が必要ない社会こそ、本当に働きやすい社会だということです。結婚、出産、子育ては女性だけのものではありません。育休中、夫に早く帰宅してほしいと思ったことは何度もありました。男女問わず働きやすい環境を整えることが、結果として「女性も」働きやすい社会に繋がるのだと実感しています。そして、その環境づくりに貢献することが私の役割だと思っています。



ジャパンマリンユナイテッド株式会社

境 小牧さん

(H16年 工学部地球環境工学科 卒)
(H18年 工学府船舶海洋工学専攻 修了)

異国で起業...自らルールを創り、働くことを楽しむ。



ランドスケープアーキテクト事務所 レンティル

佐野 文子さん

(H8年 芸術工学部環境設計学科 卒)
(H19年 メルボルン大学大学院
ランドスケープアーキテクチャー
修士課程 修了)

ランドスケープの設計会社を起業して10年になります。シンガポールは会社登録のハードルが日本に比べて低い上、中小企業立ち上げ時の税金や設備投資の優遇など、会社を始めたい人を応援するような環境が整っています。以前勤めていたシンガポールの事務所は、女性スタッフが多く居心地が良い職場でしたが、マネージメントを含めすべてのことを自分仕様自由に「デザイン」できる点に魅力を感じ、起業に至りました。しかし、実際に起業してみたことは、「収入以上に社名と肩書きを失った事」の方が心もとなく、アイデンティティー危機の泡がポコポコと出てくる事も多くありました。

事務所を設立する際、「目標や営業方針を明確にすること」「SNSでの発信に力を入れること」などのアドバイスはいただきましたが、いまだに目標はあるようでなく、ただ自身が心惹かれる面白いと感じるものを、満足いくやり方で作っていく毎日です。もちろん、すべてが期待通りに運ぶわけではありませんが、それさえも面白いように心がけています。個人的には日常の中にある発見や驚きを大切に、心を閉ざすことなく、普通に毎日を楽しむことができていたならいいなあと思っています。

女性、男性関係なく誰もが楽しく働けるのが理想ですよね。価値もルールも人が人のために(良かれと思って)作ったものだと思うので、それを壊すわけではなくもっと皆に喜ばれるものに作り替えることができたらいいなと思います。

葛藤を越えた25年。次代へ贈る、軽やかに生きる勇気。

高市総理が誕生した。女性に参政権が認められてから80年、初めての女性総理である。

25年前の私は世間知らずだった。社会は学生の私が思っているより窮屈で、教育の場では男女平等を教えられたが、就職先では男性と対等に扱われなかった。女性が周囲の反感を受けて管理職への昇格を辞退するのを目の当たりにし、入庁してわずか2年で福岡県庁を退職した。転職した神奈川県庁では、男性が親の介護や育児を担当したり、女性の上司がいたり、私が求める理想の社会があった。定年まで働くつもりでいたが、入職して10年目に夫が山口に転勤となった。幼い子どもたちの要望もあり、家族で山口県に転居した。自分で決断したものの、居場所を失ったことがつらくて、毎晩布団の中で涙を流した。転居後、民間企業で研究職として働いた。工業が中心の地域社会の中で、大人たちの男性優位の考え方は子どもたちにも引き継がれ、娘は精神的に限界だったのだろう。私が決断するよりも先に、彼女が福岡の私立中学に進学した。それ以来、夫は山口で私たちは福岡で生活している。

これまでの自分の選択に後悔はない。多くの人に助けられ、今もキャリアがつながっていることに感謝している。来年には娘が大学生になる。社会はどのくらい変わっただろうか。きっと地域差はすぐには埋まらない。それでも女性総理が誕生したことに期待する。娘にはもっと軽やかに、自由に生きてほしい。



北九州市環境局

高宮 文さん

(H12年 工学部応用物質化学科 卒)
(H14年 工学府化学システム工学専攻 修了)

関東支部

関東支部 第17回総会開催と
ご登録のお願い

●支部長 山内 桂子さん ●事務局長 大坪 博子さん

関東支部では2026年10月に2年半ぶりとなる第17回総会を開催予定です。現在、若手にも積極的にご参加いただき、異世代の同窓生が本音で語り合える場とするため、テーマ別懇談やミニ講演会などを企画中です。これまでの課題を反省し、今回よりご案内は基本的にメールやSNSを活用いたします。しかし、現在の支部の皆様のメールアドレスが不足しております。つきましては、お手数ですが、あらかじめ掲載のQRコードより「松の実関東支部」へのご登録をお願いいたします。ときどき上京される方も歓迎いたします。この会誌が届いていない方への情報共有もお願いできれば幸いです。詳細決定後、ご登録アドレスに出欠確認メールをお送りします。多くの皆様にご案内が届き、会場でお目にかかれるのを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。



登録フォーム ▲

山口支部

休会経て4年ぶり開催！笑顔集まる
紫陽花会総会と次期2026年へ向けた励まし

〈紫陽花会〉 ●支部長 加治 裕子さん

紫陽花会では、その名の通り、紫陽花の花咲く6月に隔年で総会を開催してまいりましたが、コロナ禍により、長らく開催を見送らざるを得ない状況にありました。この度、コロナ禍での休会を経て、実に4年ぶりとなる総会を、2024年9月に開催することができました。いつもの6月開催ではありませんでしたが、当日は10名の会員の皆様にご出席いただき、無事に再会の機会を持つことができました。出席者の高齢化は憂慮の一つではありますが、「体が動く内は参加するよ」「再開を待っていたよ」と言われる方も多く、その温かい言葉と笑顔から私たち役員一同も大きな励みをいただきました。次回は2026年6月頃に開催を予定しております。詳細が決まり次第、「松の実会」メルマガでもご案内いたします。山口県および近郊にお住まいの会員の皆様、新しい出会いと旧交を温めるこの機会に、ぜひご参加ください。



関西支部

世代を超えた交流と
LINEを活用したネットワークづくり

●支部長 安藤 由紀さん

1月には新年食事会を開催し、世代を超えて近況を語り合う和やかなひとときとなりました。6月にはアサヒビール吹田工場を訪問し、製造工程の見学や試飲を通じて親睦を深めました。対面の集まりに加え、日頃からLINEオープンチャットを活用し、九州大学や九大同窓会に関連する情報を随時共有することで、離れていても互いのつながりを感じられるネットワークづくりを進めています。現在は約20名の規模ではありますが、一人ひとりが母校への誇りと同窓の絆を大切にしながら活動をサポートしています。今後はさらに多くの会員に参加を呼びかけ、世代や職域を越えた横のつながりを広げてまいります。皆さまからの温かいご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。関西在住の方、ぜひお気軽にオープンチャットにご参加ください。



オープンチャット ▲

佐賀支部

LINEグループご参加のお願い

〈さがん松の実会〉 ●支部長 大川内 明子さん

佐賀支部は、吉田良子さまをはじめ諸先輩方の御尽力により、1989年から例会を重ねてまいりました。2024年3月にはLINEグループ「さがん松の実会」を立ち上げ、現在は40名程が緩やかにつながっています。本グループは皆様のペースで無理なく参加できる場です。返信義務はなく、投稿を見守るだけで結構です。既読数だけのお気持ちは伝わりますので、気負わずご活用ください。ぜひ、添付QRコードからお名前、卒業年、学部を添えてご登録をお願いいたします。読み込めない場合は、事務局へメールをいただければ私からご連絡します。



Lineグループ ▲

活動面では、2025年1月と10月に例会を開催し、楽しいひとときを過ごしました。佐々木前会長さま、稲田会長さまにもご出席いただき、心より感謝申し上げます。



会 員 通 信

文学部

●山口 康子(遠藤)(S.32)長崎県
年代をつなぎ、学部をつなぐ松の実会の本領をしっかりと反映している誌面を拝見して、未来に希望を持ちました。講演会の題「花の神を探る旅」を見て心が躍りました。理学部ならではの企画に感動し、感謝いたします。

●中尾 みどり(藤井)(S.36)大阪府
九大教育学部生まれの心理療法、臨床動作法の講師としてまだ楽しみながら仕事を続けています。

●柴田 悦子(S.41)福岡県
会報の内容に感動と尊敬があふれました。81歳の私ですが、元気をもらいました。

●谷瀬 シゲ子(木村)(S.42)福岡県
ネットを制する者が世界を支配する様相のもと、残忍な戦争と地球温暖化による災害が多発しています。人の能力が、今、地球・人類を滅ぼす方向に使われていると感じています。

●木下 弓子(久我)(S.43)三重県
今年度の総会は出席できません。遠方の方にはオンラインを含むハイブリッド総会にさせていただけると嬉しいです。

●橋元 真理子(植田)(S.47)東京都
いつもありがとうございます。男女を問わず力を発揮する時代を。

●須藤 和代(坂田)(S.47)福岡県
平和のありがたみを感じる今日この頃です。早く世界に平和が訪れることを、ニュースを見る度に願っています。

●谷口 洋子(勝原)(S.51)福岡県
糸島市は朝ドラの「おむすび」でも盛り上がりました。糸島市は美味しい食べ物と自然が自慢です。

●秀島 祐子(今里)(S.52)三重県
ケアマネの事業所でアドバイザーとしてパート勤務しています。

●松原 雅子(山本)(S.56)山口県
“松の実”の中の小さな種が3粒、山口に集まりました。また、どこかに飛んで集まることを誓ってそれぞれの地に散っていきました。

●黒田 美也(山口)(S.58)福岡県
縁あって現在、九州大学で働いています。のんびりと自由を謳歌できた自分の学生時代と異なり、大学も急速に変化する日本社会と無縁ではありません。いつの時代も大学は世の中の希望であって欲しいと思っています。

●永島 知子(多田)(S.59)大阪府
松の実会関西支部会や九大同窓会関西支部のイベントに参加しました。後輩の活躍ぶりが眩しいです。

*()内は、旧姓と卒業年。住所は、都道府県名を記載しています。

法学部

●山村 より子(S.56)福岡県
コロナの終息が近づいてきたのか文化事業の開催が大幅に増えてきました。今まで会えなかった人たちとも再会でき、よい1年でした。

●内田 敬子(S.58)福岡県
会員通信に若い方が増えるといいなと思って拝見しました。

教育学部

●古賀 千種(橋原)(S.38)福岡県
1960年代にマスメディアで取り上げられていた「女子学生亡国論」は、当時そんなに苦しいことだったのでしょか。

●高田 弘子(森田)(S.50)福岡県
60歳を過ぎて始めた発達障害児のための通所事業所は、10年の月日を、コロナ禍を含めた試練とともに越えてきました。もう少し頑張ります。

薬学部

●内田 百合子(服部)(S.40)埼玉県
会報を拝見する度に、若い後輩たちが各分野で頑張っておられる姿を見ることが出来て、本当にうれしく頼もしく思います。世界の中でジェンダー平等に最も遅れている(先進国の中で)日本の現状を1日も早く改善する力になってほしいと思います。

●中堀 純子(黒田)(S.40)鹿児島県
健康第一に日常を過ごしています。

●楠本 敦(伊藤)(S.40)神奈川県
九大女子卒業生が3万人にもなっていることには驚きました。が、それには会費納入金額が少ないですね。松の実会会報を全員に送っているのでしょうか。理事の皆さまのご尽力、ありがとうございます。

●女賀 信子(後藤)(S.42)福岡県
80歳となりました。これからも自問自答しながら現役薬剤師として微力を尽くしていきます。

●竹元 禎子(中島)(S.43)鹿児島県
2025年、とうとう80歳になります。元気で働けていけることに感謝していますが、そろそろ引退しなくては職員の皆さんに迷惑かけているのかもしれない。

●酒巻 美和子(森田)(S.45)東京都
独り暮らしが長くなりました。趣味(茶道)のおかげで若い人との交流もあり、平穩に過ごしています。

●宇多村 美津(江本)(S.45)東京都
会報は、様々な分野で自分の可能性を社会のニーズに合わせて切り開いてきた方々の凝縮した内容濃い人生でとても読み応えがありました。編集の方々のご苦労に感謝いたします。

●大坪 博子(澤田)(S.48)神奈川県
関東支部の松の実会に若い卒業生が参加してくれました。新しい時代の幕あけを期待しています。

●小野 喜美子(牛迫)(S.56)埼玉県
松の実会関東支部の会(2024.5.25)に参加して、有意義なひとときを過ごしました。病院薬剤師勤務をしています。

●伊藤 敬子(丸谷)(S.57)福岡県
毎年松の実会で講演や皆さまのお話を聞くのを楽しみにしています。今年は福岡県薬剤師会学術大会参加のため欠席ですが、盛会を心よりお祈りしています。

●小林 純子(本村)(S.62)東京都
37年間勤めた製薬会社を定年退職しましたが、再雇用で続けています。海外薬業へ異動して4年目になります。毎日新しい発見があり、ワクワクドキドキしています。

●原 理恵子(山田)(S.60)佐賀県
60歳の定年を過ぎ、1年ごとの更新ではや3年目。必要とされるうちはまだまだ薬剤師として働いていたいと思っています。

医学部

●江島 紀代子(一柳)(S.40)福岡県
84歳になりました。同級の同性2人は亡くなり淋しいです。医療も先行き不安。世の中も異常気象、戦争と不安なことが多いですね。

●平島 直子(S.42)福岡県
平和、健康、安定を祈る日々です。この会の認知度を上げないと赤字解消につながらないと思います。当番学部は卒業時に宣伝を!!

歯学部

●原田 則子(原田)(S.50)福岡県
なかなか総会に出席できず申し訳ありません。盛会をお祈りします。

●齊藤 百合子(真崎)(H.1)東京都
ついに還暦を迎えてしまいましたが、3人の子どもたちは未だ学生にて、なんとか仕事もやっています。

理学部

●高山 晴子(西)(H.1)東京都
5月の関東支部会ではお世話になりました。ありがとうございます。

農学部

●井上 眞理(岩屋)(S.49)福岡県
猛暑と極寒で庭の柚子とプラムは実らず、梅とミモザは3週間遅れの開花。これからの地球環境を守るため、松の実会の豊かな人材に期待しています。

●佐藤 宣子(八尋)(S.59)福岡県
今年、男女共同参画学協会の会長として、選択的夫婦別姓制度についてシンポジウムを企画する予定(2025.10.11)です。総会の盛会を祈念しております。

個人情報保護のため、各地域支部へのお問合せなどは、松の実会事務局迄ご連絡ください。

令和6年度「松の実会」総会・講演会報告

令和7年2月16日(土)、九州大学女子卒業生の会「松の実会」の令和6年度の総会および講演会を、西新の九州大学西新プラザで行いました。

昨年はオンラインでの開催でしたので2年ぶりの対面での開催であり、50名余りの参加がありました。

総会では、冒頭、任期を終える理学部を代表して、佐々木圭子会長より2年間の活動報告を兼ねた挨拶があり、続いて来賓の紹介、および来賓を代表して九州大学理事・副学長の園田佳巨氏にご挨拶いただきました。その後、令和5年度の事業報告、会計報告、続いて令和6年度の事業計画・事業経過が審議され、いずれも承認されました後、理学部よりバトンを引き継ぐ、工学部の次期の理事の紹介が行われました。

講演会では、福岡市科学館館長・一般社団法人九州オープンユニバーシティ研究部長・九州大学名誉教授の矢原徹一氏から「花の神を探す旅」と題して、講演していただきました。九州大学糸島キャンパスの移転に伴って、糸島の詳細な調査を行い、なるべく生態系を保全し環境を壊さない移転計画を実施された経緯を伺い、現在の緑あふれる糸島キャンパスが理解できました。また、講演の後半では今執筆中の小説「花の神を探す旅」について語っていただき、ハカセとその弟子が全国を旅して植物の新種を探し、その花の神の力を集めて、花狩人と魔王

に立ち向かうというファンタジー小説で、夏前には刊行されることのお話でした。

講演後は、ロビーでの2年ぶりの懇親会。皆さん、思い思いに食事と歓談を楽しまれました。総会後のアンケートでは、参加者の皆様から「糸島キャンパスの移転に関する矢原先生の講演が興味深かった。小説もぜひ読んでみたい。」「九大にゆかりのある施設(西新プラザ)の利用も、新鮮で良かった。」「交流会が立食形式で、色々な人と話ができよかった」など...温かい意見をいただきました。皆様のご協力に感謝申し上げます。



令和7年度「松の実会」総会報告

令和7年12月21日(日)、九州大学女子卒業生の会「松の実会」の令和7年度総会をオンラインで開催し、歴代会長を含む23名の参加がありました。

運営は工学部・芸術工学部で担当し、令和6年度の事業報告、決算報告、令和7年度の事業計画、予算案及び会則改正案が審議され、いずれも承認されました。改正された会則については右記QRコードを参照ください。



令和6年度 会計決算報告 (単位:円)

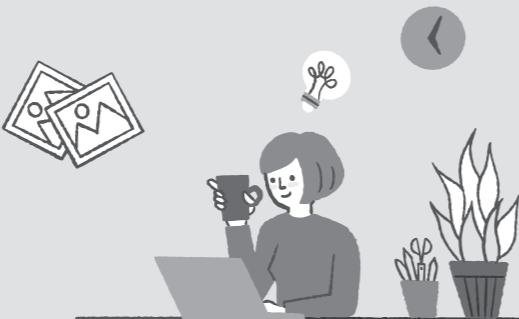
【一般会計】

収入		
区分	金額(円)	備考
前年度繰越金	1,853,246	
会費	956,000	年会費(2,000円)×478名
総会収入	168,500	総会費(4,000円)×42名
会員からの寄付金	406,000	
利息	21	
収入合計	1,530,521	
次年度繰越金	1,580,060	

支出		
区分	金額(円)	備考
総会関連費	290,540	総会会場費、ケータリング料、講師料など
会報関連費	338,217	会報印刷費、郵送費
支部助成金	80,000	支部活動費(4団体)
人件費	720,000	事務局給与
事務費	39,084	切手代など
設備費	176,706	事務局賃料、通信代
広報費	159,160	メルマガ費、支部総会参加旅費
支出合計	1,803,707	

【特別会計(50周年記念特別基金)】

収入	
区分	金額(円)
前年度繰越金	374,013
利息	51
計	374,064
次年度繰越金	374,064



役員紹介

令和7・8年度は、工学部と芸術工学部で役員を担当しています。映像作品、小説、音楽、漫画、スポーツ…。私たちのおすすめコンテンツをご紹介します！



〈会長〉
稲田 幹さん
(H17年 工学府博士課程 修了)

漫画『青の花、器の森』(小玉ユキ著)がおすすめです。私の専門であるセラミックス分野において、根幹となる陶磁器の話が盛りだくさんで、陶磁器作製や歴史の勉強になります。



今崎 頼子さん
(H元年 工学部 卒)

『この音とまれ!』(アミュー:集英社)。神奈川県立時瀬高校箏曲部が舞台の青春群像劇。ジャンプSQで2012年から連載中。作中の演奏曲『天泣』はアニメ動画も配信されています。青春と感動が詰まっています！



大畑 温子さん
(H12年 工学部 卒)

映画『イーディ、83歳、はじめての山登り』『マダム・イン・ニューヨーク』『ピリブ 未来への大逆転』『これが私の人生設計』漫画『モンパチ 嫁はフランス人』小説『今日は、お日柄もよく』前向きになれる。



倉橋 美佳さん
(H13年 芸術工学部 卒)

おすすめは海外ドラマ『ビッグバン★セオリー』と、その前日譚『ヤング・シェルドン』。理系オタクたちの日常と天才少年の視点から、ユーモアと人間関係の機微を学び、仕事のアイデアの種にしています。



佐々木 理恵さん
(H19年 芸術工学府 修了)

大濠公園。福岡市の象徴のひとつではないでしょうか。四季折々の自然の中、水面と繋がる空が大きくひらけているのが一番の魅力だと思います。湖畔の茶屋では八女茶も楽しめる。自分と向き合う時間がそこにあります。



田中 佐知さん
(H15年 工学府 修了)

女性初の弁護士・判事をモデルにした朝ドラ『虎に翼』にはまっています。女性に関わらず様々な性別や立場の人が生きていく上での困難さを描いており、共感できる場面が多々ありました。



近木 悠子さん
(H21年 工学部 卒)

最近仕事をしながら『YOUR SONG IS GOOD』を聞いています。ハッピーな気分です！最近小説を読めていませんが、好きな作家は江國香織さん、辻村深月さん、伊坂幸太郎さんです。



原口 唯さん
(H23年 芸術工学府 修了)

『ありす、宇宙までも』学校の授業についていけない中学生・朝日田ありすが、孤高の天才・犬星くんとともに宇宙飛行士コマンダーを目指す漫画です。「宇宙に行きたい」だけでなく「学ぶ」ことにも出会う物語。二人の関係性に泣けます。



深田 真紀子さん
(H14年 芸術工学部 卒)

小説『西の魔女が死んだ』ちょっと自信がなくなってしまった時や、これでいいのか？と不安になった時に読むと「自分が感じている道を選んでいよね」と思わせてくれる一冊。



吉岡 麻子さん
(H10年 工学部 卒)

ドラマ化も話題になった桐野夏生さんの小説『燕は戻ってこない』と、川上未映子さんの小説『夏物語』。どちらも妊娠、出産、生命の意味など深く考えさせられる作品ですが、読みだしたら止まらない素敵な作品です。



笠 淑美さん
(H7年 芸術工学部 卒)

『世界99』村田沙耶香氏による2025年発表の長編小説。一人の女性の一生を通して読み手によってはディストピアともユートピアともとれる社会構造のなか、「人間とは・性的役割とは・社会とは」を皮膚感覚と共に体感できる一冊。



〈事務局長〉
村山 由香里さん
(S57年 文学部 卒)

『SHE SAID/シー・セッドその名を暴け』2017年、爆発的な#Me Tooを巻き起こした米ハリウッドの元大物映画プロデューサーによる性暴力事件。ニューヨーク・タイムズ紙の女性記者2人の奮闘ぶり、世界に影響を与えた運動の始まりは感動です。